

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600218		
法人名	医療法人社団 栄寿会		
事業所名	グループホーム ほほえみ荘		
所在地	佐賀県杵島郡大町町大字福母2591-21		
自己評価作成日	令和 6年 3月 1日	評価結果市町村受理日	令和6年 7月 1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会		
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号		
訪問調査日	令和6年4月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広間は天井が高く、全蛍光灯LED仕様の為明るく、入居者様の笑い声が聞こえる、穏やかで過ごしやすい雰囲気を感じることが出来る施設です。各居室には、トイレと洗面台、クローゼットが備え付けられており、馴染みある物品を自由に持ち込んで頂き、その方に合わせた生活環境を提供できるようにしています。認知症ケアに関しては、認知症介護実践リーダー研修修了者を複数名配置し、チームケアに取り組める体制の構築を行っています。また、協力医療機関からの月に2回の居宅療養管理指導に加え、施設看護師を配置することで、地域医療との連携、利用者様の体調管理に取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

豊かな住宅街に囲まれた2ユニットのホームである。ホームは、設立から20年という長い年月を経過し、地域の一員として繋がりを重ねてきたことで、自然に地域に溶け込んでいる。入居者の多くは、近隣の市町からの入所がほとんどで、ケアマネジャーや地域包括支援センター、行政からの相談等により受け入れている。職員は勤務年数が長く、入れ替わりはあまり多くない。また、母体が医療法人として運営されているため、緊急時の対応や看護師の配置、職員の研修等充実している。今後も、地域の中でますます重要性が高まっていくと感じられるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	西ユニット	東ユニット		西ユニット	東ユニット
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	○	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	○
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	○	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	○
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	○	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	○
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	○	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	○
60 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	○	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	○	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	○
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	○			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に掲げている「五省」と「ほほえみ荘理念」を出勤時に確認し、意識の統一に努め、スタッフのミーティング時等にその共有を図るよう心掛けている	同左	理念は開所当時から継続し、職員の目に付くところに掲示されている。振り返りは、ミーティング等で行い、理念の実践に努めているが、パート職員等へ理念の共有は十分とは言えない。	理念は、職員が支援を行うために心掛ける基本となるものであり、雇用形態に関わらず、理念の共有について期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響もあり、外部との関りに多くの影響が見られたが、少しずつ緩和出来つつある。婦人会や老人会から手作りの物品を提供して頂いたり、地域の趣味の会へ出展し、見学に行くなど地域交流が行えている。地域主催の芋ほりも毎年参加しており、高齢の方だけでなく小さいお子さんとの交流もある。	同左	地域でのホームの周知度は高く、頂き物をしたり、地域のバザーに入居者の作品を展示するなど、地域の方と良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	包括主催のオレンジカフェや研修等、依頼があった際は積極的に参加し、地域との交流を心がけている。また、運営推進会議において、地域の方に何が出来るか等話し合っている。	同左	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内でのイベント、入居者の生活状況の報告、入居状況と人員状況の報告、虐待関連、感染症関連等、行政、民生委員、区長との情報提供に加え、地域との情報共有を行っている。	同左	関係機関や地区の担当者を招いて、年6回対面で開催している。議事録は整備され、家族や各関係者、職員と共有している。しかし、会議への家族の参加が見られない。	家族が参加しやすい会議日程や、参加への声掛けの方法等について、工夫されることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	避難訓練時に民生委員、区長の参加を呼びかけ、運営推進会議時に振り返りを行う等、緊急時に対する連携を図っている。空室状況を地域包括支援センターや他機関と連携を取り、協力を頂いている。	同左	地域包括支援センターの実施する研修に参加したり、入居等の相談を受けたりしている。また、オレンジカフェ(認知症カフェ)にも参加し、良い関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する外部研修への定期的な参加と、施設内での研修を合わせて行っている。玄関の施錠に関しては、帰宅欲求が強い方がおられ、無断外出される危険性が高く、家族様の要望もあり内側のドアの施錠を行っている。その中で日勤帯においては確実な管理が可能な時間帯を作り、限定的ではあるが、施錠の開放に努めている。	同左	身体拘束の指針を作成し、ミーティング等で研修を行い、外部の研修を受講している。また、定期的に身体拘束適正化委員会を開催している。玄関の内扉の施錠について、職員で検討しながら、開放する時間を増やすよう努めている。	今後も、玄関の内扉の施錠が開放に向かうよう、取り組みに期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する外部研修への定期的な参加と、施設内での研修を合わせて行っている。身体拘束と合わせ、運営推進会議時に報告と情報共有を図り、防止に努めている。	同左		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様の保護や財産管理等連携を行うとともに、定期的に開催される外部研修への参加と、施設内研修を合わせて行っている。	同左		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際は、重要事項説明書の説明を行い、施設サービスにおける理解を得ることで、ご家族様の不安や意向を聞き取るよう努めるとともに、改定等の際は、ベットで説明書を送付し、承諾を得ようとしている。その際不明点等質問の窓口を設けている。	同左		

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議開催時に本人様やご家族様の意向をお聞きし、ケアプランの改善を図っている。意見要望の窓口として、法人事務長や管理者を相談係として配置している。その他の相談窓口として重要事項説明書へ他機関の記載を行っている。	同左		家族からの電話や面会の際に、要望を聞き取るようにしている。毎月「ほほえみ荘だより」を発行し、入居者の様子を伝え、担当職員は家族の要望を聞き取る手掛かりとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	荘内におけるミーティングや個別面談等で出た改善案を管理者が聞き取り、法人内の各検討会議で提案することで、運営への反映に努めている。	同左		会議や個別面談で要望を聞き取っている。話しやすいように介護リーダーを配置し、半年に1度は個別面談を実施する等、職員の意見を運営に反映させるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課を取り入れ、年間単位での項目別評価と、半年単位での勤務状況評価を行い、賞与へ反映される体制を取っている。その際に人事考課を個別面談によりフィードバックすることで、個々の意欲向上に努めている。	同左			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	処遇改善加算の算定と共に、研修計画を作成し、施設内外問わず研修を受ける機会を設けている。佐賀県認知症実践者研修、リーダー研修への参加を積極的に行っており、研修修了者を複数名配置している。基礎資格がないものに関しては、法人内で認知症介護基礎研修を受ける機会を設けている。	同左			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	佐賀県グループホーム協会へ加盟し、同業者との交流を図るとともに、同協会主催の研修へ参加することにより質の向上に努めている。市町内で開催される地域連携会議では、管理者だけでなく、看護師や計画作成担当者も参加することにより地域との交流の場を設けている。	同左			

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や性格の情報を吟味し、寄り添うことで本人様の希望や困っていることを聞き取り、お互いの信頼関係の構築に努めている。	同左		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期相談を含め重要事項説明書を行う際もご家族様の疑問や要望を発信して頂けるきっかけを設け、できるだけお話を聞くことで不安を軽減して頂けるよう努めている。	同左		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前訪問時や、初期相談の段階でどのようなサービスを必要とされているのかを見極め、適切なサービスを提供できるよう努めている。	同左		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が入居者様の生活に関わらせて頂いているという共通認識のもと、一緒に洗濯物を干したり畳むなど、軽作業を行い、一緒に過ごす時間を確保し、生活の共有に努めている。	同左		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月施設の様子を「ほほえみ荘便り」としてご家族様へ送付している。コロナ禍では難しかった面会も、一部緩和し、制限付きではあるが同じ空間で過ごして頂けるようにしている。担当者会議では、本人様とご家族様の声のもと、サービス内容の確認と同意を頂き、家族を含めての支援が出来るよう努めている。	同左		

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	病院受診など、入居者様に馴染みが深い方との関りを大切にしている。コロナの影響もあり、施設内での面会や、外出に関しては制限せざるをえない状況が続いているが、可能な限り、馴染みの床屋に来て頂くなど、希望が叶うよう努めている。	同左		知人や近所の友人が訪ねて来たり、電話がかかってくることもある。訪問されたときは、面会の制限はあるが、できるだけ馴染みの関係を継続できるように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士で関りを持たれる中で、間に職員も介入することでその場の雰囲気盛り上げたり、話しやすい環境の提供に努めている。	同左			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了時は医療機関への移行が多く、医療機関との連携に合わせ、ご家族様からの相談時は合わせて対応するように努めている。	同左			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント							
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や本人双方の意向を聞き取り本人の心身の状態などで支援の方法を考え家族と本人の意向に限りなく近い支援になるよう努めている	同左		ゆっくりとした時間を作り、なるべく本人が答えやすい質問をしたり、その仕草から思いを聞き取るようにしている。聞き取った内容は、申し送りノートで共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のこれまでの生活を把握した上で現在の状況や病状から本人にとって安心できる暮らしができるよう支援したい、日々変化している状況の中で本人の状態に応じた支援を心がけている	同左			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日バイタル測定や食欲、表情、本人の何かしらの訴えなどその日の心身状態を把握して医療との連携を行い支援している	同左			

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の要望、医師や看護師の助言を総合的に考え本人にとってよりよく暮らして行くための介護計画やモニタリングを行っている	同左	本人、家族の要望を聞き取り、ドクターの意見を踏まえ、モニタリングを行い、関係者と協議し、計画を策定している。来られない家族には計画書を送付し、同意を得ている。関係書類は整備され、管理されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人の状態の変化はその日その日で気分や体調も異なっているためその都度本人の状況を記録し新たな課題が発生した場合現場職員から聞き取りを行いモニタリング、プランに反映させている	同左		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問歯科、医療訪問マッサージ、医療リハビリ通院など利用者の希望や状態に応じた医療的支援を受け入れている。	同左		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染対策で外出は受診等最小限に抑えている、家族面会については制限付きで居室での面会の許可が出ているがボランティア等の楽しみが無く施設内で職員とイベントなど参加されている	同左		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医診察は本人様ご家族様の希望のもと選択して頂いている。本人様やご家族様の希望があれば、協力医療機関の居宅療養管理指導も受けられるようにしている。他科受診が必要な時は、施設看護師が主治医、ご家族と連携を取りながら対応を行っている。	同左	かかりつけ医については、本人、家族の希望に沿って対応している。他科受診については、看護師が対応し、家族に病状を報告している。夜間は、オンコール代行サービスを利用している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日勤帯は施設看護師を配置しており、介護職との連携のもと、特変時における対応や病院受診を行っている。夜間帯は、オンコール代行サービスを利用し、常時契約先の看護師、ドクターへ相談できる体制を取っている。	同左		

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関と基本情報やADL、生活習慣、心身の状況等必要な情報の提供を行っている。入院期間との連携のもと、状況の把握に努め、必要に応じてカンファレンス等に同席させて頂くこともある。	同左			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期に向けた方針(看取り指針)作成のもと、入居時に同意を頂き、ご家族様の希望に応じて、看取りが必要になった際は再度契約を行い、家族、医師、施設看護師、介護職員が連携を取り、終末期を迎えて頂く支援を行っている。	同左	看取りについては、契約時に説明を行っている。必要な時期になると、家族、関係者と話し合いを行い、再度契約を交わしている。その都度、看護師が職員への研修を実施し、相談を受けている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設看護師滞在時は看護師が対応。必要に応じ状況を主治医に報告、病院受診、救急搬送を行っている。看護師不在時は滞在中の介護職員が主治医へ連絡指示を仰いでいる。夜間帯は契約先のオンコール代行サービスへ相談のもと、必要に応じて救急搬送を行っている。	同左			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防火訓練を行い、夜間帯を含む災害時の動きや連絡方法などの確認を行っている。訓練時には区長、民生委員に参加して頂き、年1回は消防職員指導のもと実施し、運営推進会議の際に振り返りの場を設けている。合わせて定期的に施設内においてBCPの研修を行っている。	同左	夜間帯を含め、年2回の訓練を実施している。訓練には、地域の関係者が参加し、入居者の見守りを依頼している。災害用備品を備蓄し、定期的にコンセント掃除をする等、点検を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内において定期的に人権の尊重について研修を行い、入居者様の尊厳に配慮を行っている。一人一人の意向を尊重したケアに努めているが、言葉遣いなど見直しが必要な箇所もある。	一人一人の利用者様の尊厳に配慮し、ユニット会議で振り返りの場を設けながら、職員同士の意見交換を行っているが、配慮に欠けている時はお互いに注意し合える環境を構築していく必要がある。	入居者の尊厳を大切にし、声掛けの時は、大声を出さず、静かに話すように心がけている。トイレや入浴の際は、プライバシーの確保のため、ドアの開閉等に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	可能な限り入居者様の意向をくみ取るようにはしているが、コロナの影響も重なり、希望に沿った外出支援等は行っていない。普段の生活の中で、希望に沿った支援が出来るようミーティング時等検討の場を設けている。	利用者様の気持ちをコミュニケーション時や日常生活の中で、表情の観察や反応を職員間で共有する時間を設けている。適切に対応できていない時もあるので、業務の見直しも必要になる。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別ケアを基本とし、介護計画に沿った支援に努めているが、日常業務をルーティン化の中で身体介護など、職員側の都合を優先している箇所も見られる。	職員中心のケアにならないように、利用者様の訴え、要望には耳を傾けていけるような意識作りを行っているが、職員の意識不足で希望に添えてないケアも見られる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの体調面も考慮し、入居者様の好みに合わせ負担にならないよう衣類の選別を行っている。必要時にご家族様へ連絡をとり衣類の調整を行っている。	利用者様の好みや要望に配慮しながら洋服選びを行っています。季節に応じた衣類が不足している時は家族様に相談したり、購入を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副菜は外注を取り入れ、普通食、刻み、ソフト食と入居者様に合わせた食事形態を提供している。イベント食も積極的に取り入れ、出来るだけ四季を感じて頂けるよう努めている。入居者様にはお盆やテーブル拭きなど簡単な軽作業を手伝って頂いている。	一人の一人の利用者様に適した食事スタイルに努めながら、季節感を味わえるように提供しています。お盆拭きや簡単な食器洗い等も手伝いをお願いしながら、役割を持って頂いています。	食事は、外注で行っており、主食、副菜とも個別に蓋つきで、温かく提供できている。入居者には、お盆拭きなどを手伝ってもらい、行事食の時は弁当にしたり、食事を楽めるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録により食事量と水分量の把握を行っている。栄養補助食品の活用や、食事形態の調整を行うことで、出来る限り無理なく栄養の確保が出来るよう努めている。制限がある方に関しては主治医との連携のもと管理を行っている。	利用者様の日々の記録を元に、食事量、水分摂取量を把握している。必要に応じて、栄養補助食品や主治医に相談の上、希望ある食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけによる自立支援や、介助での口腔ケアを行っている。入居者様によっては個別で歯科往診を契約されている為、情報を共有し清潔保持に努めている。嚥下状態、介助の必要性に合わせ歯科医推奨のオーラルジェルを活用している。	毎食後声掛けを行いながら口腔内清潔保持に努めています。定期的な歯科往診でアドバイスを頂きながら、口腔ケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄状況に合わせてパットの選定を行っている。声かけでの誘導や、必要に応じて2人介助を行う等、可能な限りトイレでの排泄を検討し、尊厳の維持に努めている。	その方の排泄パターンを把握しながら、早めに声掛けを行い、羞恥心に配慮しながら、排泄の失敗の軽減に努めています。	日中は、個々の身体状況に合わせて、チェック表を確認しながら、できる限りトイレでの排泄に誘導するようにしている。夜間は、オムツを使用する方もいるが、個室のトイレを利用して排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の記録の中から、排泄状況を常時確認し、介護職員と施設看護師間で情報の共有を行い、主治医指示のもと服薬管理と食生活の管理に努めている。	その方の排便状況を確認しながら、日々の水分状況の関連や服薬調整を行い、施設看護師より腹音確認を行ってもらっています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基礎となるローテーションの中で、可能な範囲で希望に沿った調整を行っている。日々の体調に合わせた入浴の調整や、排泄失敗時の入浴による洗身などを行っている。	職員の都合で行っていることもありますが、一人一人の気持ちに寄り添いながら入浴を促しています。曜日を変更したり、時間を置いたり、スタッフを変えるなどの対応を行っています。	週2回以上の入浴としているが、希望や必要があればいつでも入浴ができるようにしている。入浴の拒否がある場合は、時間を置いたりして、柔軟に対応している。希望があれば、同性介護も可能である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様のリズムに合わせた睡眠が行えるよう支援に取り組んでいる。主治医からの指示による服薬の管理や、必要に応じて付き添いを行う等、安心して就寝できる環境の提供に努めている。	一人一人の利用者の生活スタイルに合わせてながら休息することを心掛けています。安心して眠れるように傍で付き添いを行ったり、会話対応を行っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設看護師を中心とした管理とともに、介護職員との情報共有を行い、薬情を個別にファイリングしておくことで、目的と用法、副作用などの概要を常時確認できる体制を整えている。	施設看護師が服薬管理を行い、ファイルに個別情報を確認できるように管理しています。副作用、目的、用法の理解が出来るような体制にも努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の趣味嗜好に合わせた支援の提供や役割の反映に努めているが、コロナによる制限もあり、外出等は難しい場合も多く、精神的ストレスを生じさせている事もある。提供可能な範囲でイベント等の立案と提供を行っているが、日々の楽しみとしては不足している所も多い。	一人一人の希望に合わせた活動や楽しみごとを取り入れながら可能な限り希望に沿った支援に努めています。気分転換も図りながら、精神苦痛の軽減に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価		
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナによる制限の中で、希望通りの外出は行えていない。不特定多数との接触がない範囲で、地域のイベントへ参加したり、荘周辺の散歩を行っている。ご家族様からの相談によっては、その理由を考慮し、条件提示のもと限定的ではあるが、外出を許可するなどの個別対応を行っている。	コロナが5類に移行してからも、利用者様の望んである外出支援を提供する事が出来ていない。天気が良い日には、荘外で過ごしていく時間を設けるなどの配慮は行っています。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から預かり金をお預かりしている。入居者様の希望に応じて物品の購入を行ったり、可能な範囲で一緒に買い物を行う事もある。定期的に荘へパンの移動販売が来られることもあり、希望する方には自分で選び購入して頂いている。	ご家族様から預かっているお金で利用者様の要望する物品を購入しています。所持金を管理できる利用者様は他科受診の際に自動販売機で好みの飲み物を購入されてあります。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	一部の方は入居者様とご家族の希望に沿って携帯を所持されている。意向によって個人で管理されたり、荘で管理を行っている。必要に応じて荘の電話を使用し、ご家族様やご友人との電話をおつなぎしている。希望があれば、オンラインでのテレビ電話も受け付けている。	入居様の中では携帯電話を持たれてあり、その方の好きな時間に電話を使用されてあります。家族様からの手紙は随時本人様に手渡ししています。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の蛍光灯は、ホワイトベースのLEDを使用しており、明るく開放感のあるつくりとなっている。クリスマスやお正月などは飾りつけを行い、四季を感じて頂き、楽しんで生活できるように取り組んでいる。	イベントの際には季節感を取り入れたり、飾りつけ等可能な範囲で作業を手伝ってもらっています。床掃除などを取り入れることで、安全な環境作りや室温調整も気候に合わせながら取り組んでいます。			

自己	外部	項目	自己評価(西ユニット)	自己評価(東ユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	複数名で一緒に過ごせるようソファを複数個所に配置したり、一人用の椅子とテーブルを配置するなど、個々人で自由に過ごせる空間の提供に努めている。必要に応じて配置転換を行う事もある。	気の合った利用者様同士で、談話ができるような空間づくりやトラブルがないようなソファの配置に工夫を行っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室への持ち込みに関する規制はなく、馴染みある物品と共にご家族様の協力のもと、過ごしやすい環境の提供に努めている。全居室備え付けの収納スペース、洗面台、トイレがあり、プライベートの空間が提供できるようになっている。介護用電動ベッドを配置しており、状態に合わせた支援に取り組んでいる。	利用者様の安全を優先した、配置作りや馴染みのある物品を置くことで、これまでの住み慣れた環境に近くなるよう、利用者様が安心した生活が送れるような工夫に取り組んでいます。	居室には、自由に馴染みの物を持ち込んでもらっている。窓のカーテンはリースで定期的に交換されており、洗面台やトイレが設置され、居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行状態に合わせて、歩行器、シルバーカー、車椅子が使用できるようフラットなつくりとなっており、安全かつ自立した生活が送れるように、既存機能に焦点を当てたケアに取り組んでいる。	心身の状態に合わせて、シルバーカー、歩行器、車椅子の使用が出来るように導線の確保に努め、利用者様が安全に移動出来る環境作りに努めています。		